

キトラ古墳壁画の複製陶板の製作について

1. 製作の背景

キトラ古墳壁画は、平成13年に実施したデジタルカメラによる石室調査の結果、壁画の描かれた漆喰が今にも剥落しそうな状況であることが確認され、緊急に保存対策を講じる必要性が生じた。このため、文化庁では、壁画を取り外し、石室外で保存修理を行うという方針を平成16年に決定し、これまで取り外し等の保存措置を講じてきた。

このように、キトラ古墳は保存対策を進める上での緊急性から、高松塚古墳壁画のように壁画の模写を行う時間的余裕がなく、石室に描かれた壁画の全容は、平成16年に撮影された高精細デジタルカメラによる写真を合成したフォトマップでしか、公開することができなかった。

このため、平成21年度にフォトマップのデジタルデータを活用し、平成16年当時の石室内の壁画を原寸大で複製することとした。複製に当たっては、国民が貴重な文化財である壁画に慣れ親しむ機会を恒常的に確保できるよう、強度や耐久性に優れた陶板で製作することとし、平面展示に加え、石室空間を構成した形での展示も可能となるよう努めた。

2. 製作概要

(1) 製作会社

大塚オーミ陶業株式会社

本 社：大阪府中央区大手通3-2-21

信楽工場：滋賀県甲賀市信楽町柞原926

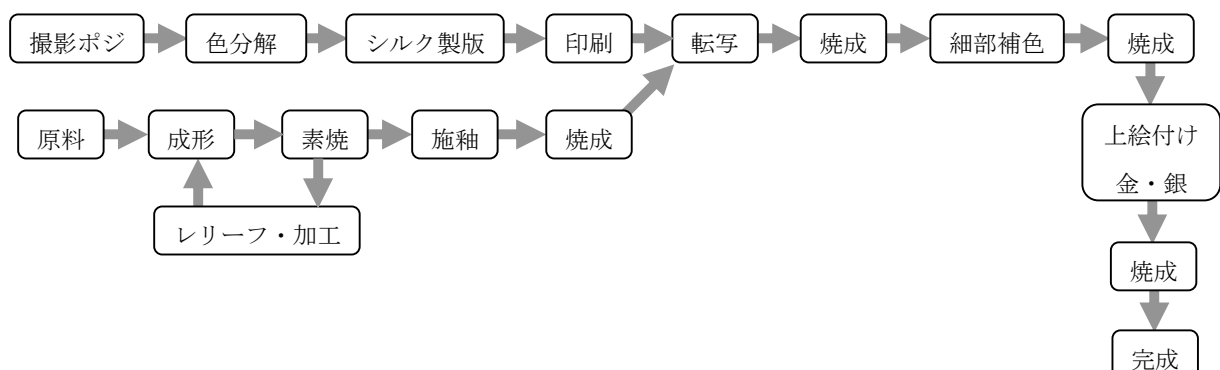
(2) 製作期間

平成21年10月 ～ 平成22年3月

(3) 製作の流れ

複製陶板の製作に当たっては、「複製品製作委員会」（以下「委員会」）を組織し、4名の委員により検討した。フォトマップや壁画の修理過程で撮影された斜光写真等の画像データを基に、多くの試作品を製作し、色調や漆喰の凹凸・剥離状況などについて、検討を加え、実際に壁画の保存修理に携わっている技術者の協力も得て、完成に至った。

(4) 製造フロー



3. 製作協力者

(複製品製作委員会委員)

有賀祥隆 東京藝術大学客員教授

井上直夫 (独)国立文化財機構奈良文化財研究所企画調整部専門職員

加藤真二 (独)国立文化財機構奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長

川野邊渉 (独)国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長

(その他の協力機関)

(独)国立文化財機構東京文化財研究所

(独)国立文化財機構奈良文化財研究所

一般社団法人国宝修理装演師連盟

キトラ古墳壁画 複製陶板の概要

■複製対象

天井、北壁、東壁、西壁、南壁の5面及び床面

■材質

せつ器質

■寸法等

天井：D2425×W1085、約20～27mm、約230kg

北壁：H1150×W1094、約20～25mm、約70kg

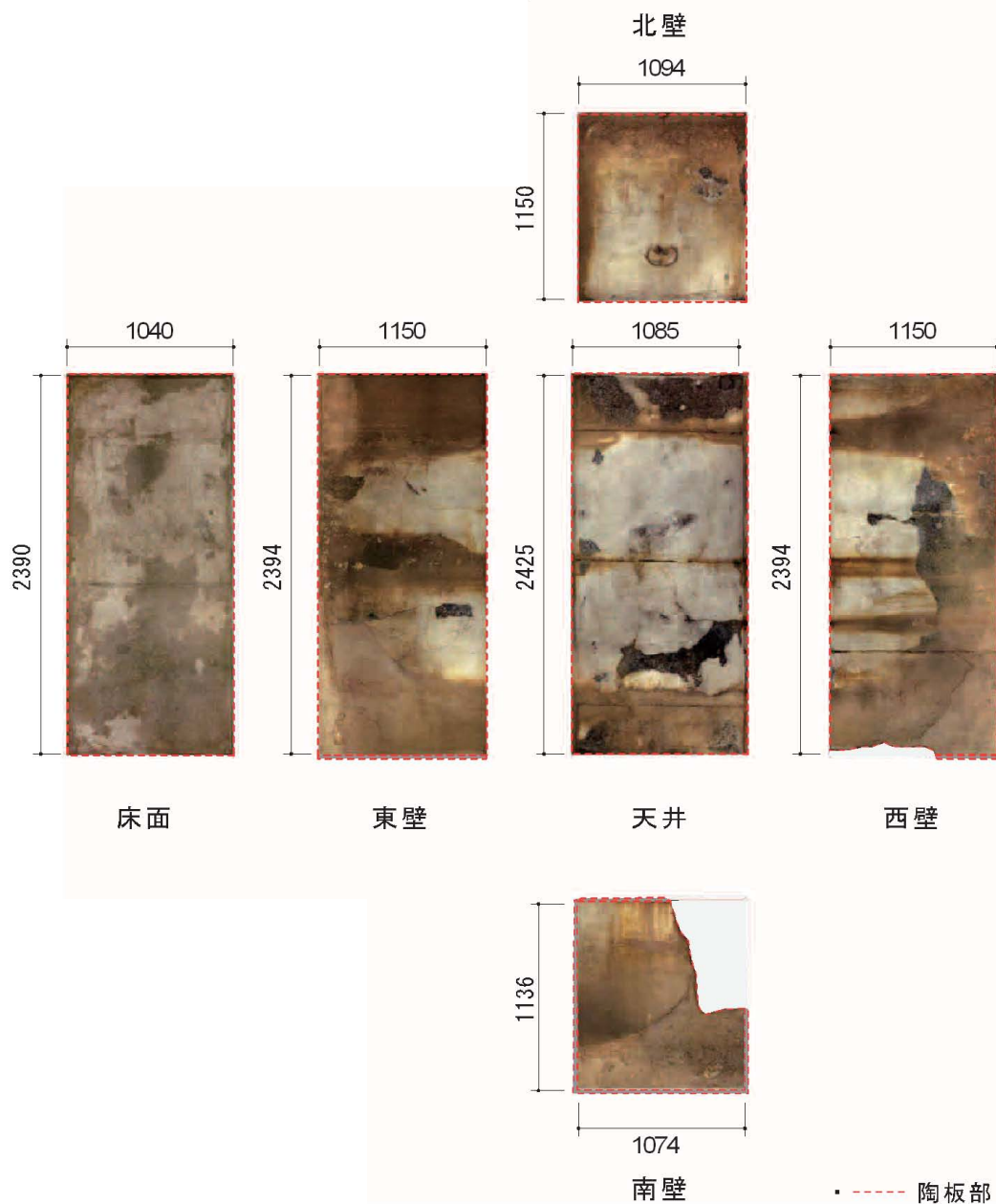
東壁：H1150×D2394、約20～40mm、約165kg

西壁：H1150×D2394、約20～25mm、約165kg

南壁：H1136×W1074、約20～25mm、約70kg

床面：D2390×W1040、約20mm、約140kg

※ 壁画のフォトマップを使用した寸法図を以下に示す。

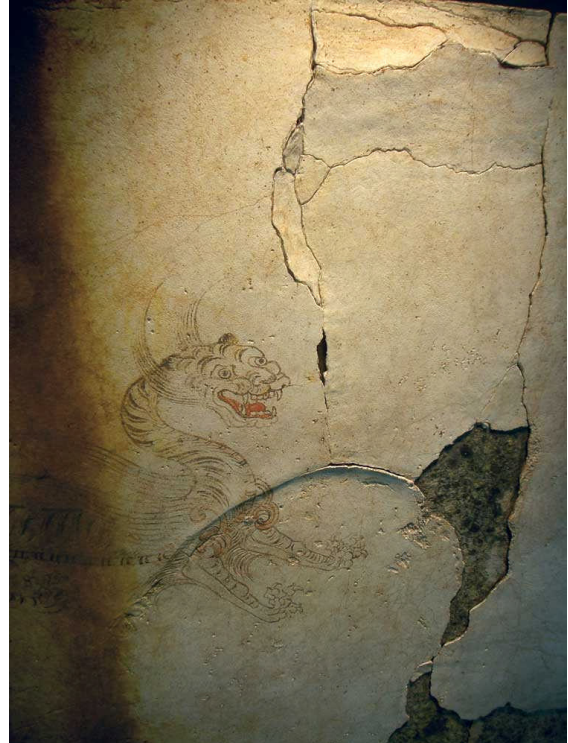




飛鳥資料館における展示の状況（石室空間の再現）



細部の表現（北壁）



細部の表現（西壁）